2．2　中野区の図書館の現状

（1）区立図書館

① 統計等からの把握

先に述べた通り，中野区立図書館では，『図書館の新しいあり方』（平成 21 年 10 月）にて示された，課題解決支援型図書館とネットワーク型図書館を目指し，既存の全 8 館の個性づくり（各館での特徴ある蔵書充実や利用者支援パスファインダー作成等）やサービスポイント増加（駅前への返却ポスト設置等）に取り組んできました。

この中野区立図書館の統計について中野区立図書館の『事業報告書』平成 29(2017)年度版によれば，区立図書館合計で，蔵書冊数 980,218 点（中央図書館は 504,670 点），登録者数 54,845 人（登録率 13.4%），図書資料の貸出数 1,924,483 点となっています[19]。

次表（表 2）は中野区立図書館の『事業報告書』平成 29(2017)年度版から引用した，登録率等の推移です。平成 28 年 11 月から 29 年 3 月まで中央図書館の大規模改修工事が行われており，こうした要因に起因する貸出冊数の減少等はありますが，実質的にはほぼ横ばいと考えられます。

表 2　個人登録者（区内在住者）の登録率，登録者 1 人当たりの貸出冊数の推移

区　　分	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度	２９年度
中野区人口	315,003	318,530	323,688	326,839	329,577
利用登録者	77,229	76,894	58,855	62,519	54,845
区民登録者数	61,058	60,507	46,924	49,937	44,293
登録率 （区民登録者数／中野区人口）	19.4%	19.0%	14.5%	15.3%	13.4%
年間貸出冊数（個人）	1,905,052	1,903,278	2,000,772	1,814,631	1,924,483
登録者1人当りの貸出冊数 （貸出冊数／利用登録者数）	24.7	24.8	34.0	29.0	35.1

※　各年度の「中野区人口」はそれぞれ翌年度4月1日現在（例：29年度は30年4月1日現在）

② ウェブ調査

中野区立図書館の電子資料サービスの現状を探るべく，「なかの　いーぶっく　すぽっと」とデジタルアーカイブのログを確認しました。

・「なかの　いーぶっく　すぽっと」のログからの統計

現在，中野区立中央図書館内で，一般向けと児童向けの２つのエリアにてスマートフォンやタブレットで電子図書が閲覧できるサービス「なかの　いーぶっく　すぽっと」が提供されています。デジタル絵本や名作文学が提供されています。平成 29 年度は，一般向けエリアで 114,200 ページ，児童向エリアで 71,700 ページが利用されました。

・デジタルアーカイブのログからの統計

「中野区立図書館デジタルアーカイブ」ではインターネットを通じて『中野区史』などのデジタル資料を提供しています[20]。「Google アナリティクス」（サイトのアクセス解析のサービス）を利用し，電子書籍ビューアのページ（電子書籍を表示し読むページ）はカウントしていませんが，平成 29 年 6 月のサービス開始より，デジタルアーカイブの書誌のページや同様のシリーズをまとめたページなど，デジタルアーカイブ閲覧の入口として機能するページをカウントしています。その統計を表 3 にまとめました。図書を中心に，日々利用されていることが読み取れます。

表 3　デジタルアーカイブのログからの統計
（平成 29 年 6 月（サービス開始）～平成 30 年 5 月まで）

分類	ページビュー数	備考
図書	12,269	書誌やコレクションのページでカウント
映像資料	2,491	書誌やコレクションのページでカウント
トップページ	5,786	―
その他	2,614	検索結果のページなど

また，測定された，デバイス別の利用の割合をグラフ（図 1）にしました。携帯電話やタブレットの利用が 33%あり，デジタルアーカイブのサービスをスマートフォンやタブレット等でも見やすくする必要性が示されています。

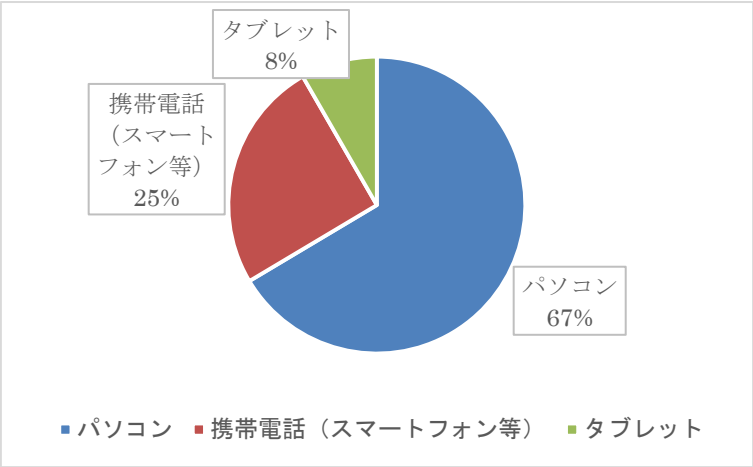

図 1　デバイス別の利用の割合
（平成 29 年 6 月（サービス開始）～平成 30 年 5 月まで）

（2）学校図書館

① インタビュー調査

司書教諭や学校図書館担当教諭を対象に，インタビュー調査を行いました。調査結果は，**添付資料 1「学校図書館の機能充実に関するインタビュー調査報告」**の通りです。

・調査概要

表 4　インタビュー調査の日程と場所

日程	場所
平成 30 年 8 月 1 日	中野区立第五中学校
平成 30 年 8 月 7 日	中野区立白桜小学校

・調査結果

添付の通りです。

・考察

◆ 貸出方法は両校とも貸出カード方式であり，学校図書館システム導入により，児童・生徒の読書記録等のプライバシーについて改善されると思われます。

◆ 館内のディスプレイ（陳列方法）が工夫されています（新着図書案内，特集棚，図書委員おすすめ本のお知らせ等）。また，昼休みの利用は多く，雨の日は両図書館とも普段の倍以上の入館者数であり，児童・生徒の「居場所」としても機能しています。

◆ 白桜小学校では，4・5 年生は隔週（学校図書館指導員のいる時間）で，6 年生は毎週の前半・後半に 20 分ずつ，それぞれ「読書」の時間を設け，授業の一環として学校図書館活用が行われています。

◆ 第五中学校では「ビブリオバトル」が「読書旬間」の行事として全校をあげて実施されています。これは学校図書館の「読書センター機能」としての側面です。

◆ 「学習・情報センター機能」に関しては，学校図書館を授業でさらに活用してゆける可能性がうかがえました。

◆ 学校図書館指導員（月 16 日，1 日 4 時間勤務）の休日は学校図書館が休館となるなどしますが，補うことができれば機能拡充につながる点についての示唆がありました。

これらの現状から考えますと，開館時間等の拡充を図ることや，小学校に関してみられる相当数の貸出について、学校図書館システム導入によって，サービス向上につなげられるようです。

また，学校図書館に関わる基準については，運営方針等を持つ学校もありますが，全校にはなく，中野区全体として基準整備について方向づけることにより，学校図書館運営に役立つのではないかと考えられます。

（3）関連機関

① 文献調査

・ビジネス支援

中野区内のビジネス支援機関・施設としては，中野区産業振興センター，中野区勤労者サービスセンター（エンジョイライフなかの），東京商工会議所中野支部，一般社団法人中野区産業振興推進機構（ICTCO），東京コンテンツインキュベーションセンター（TCIC）などがあります。マッチング・コーディネート，法務・財務等の専門サポート，各種イベント・セミナー，施設利用（専用デスクなど），メールマガジン配信などのサービスが提供されています[21)]。

・子育て支援

中野区では，子育て支援機関・施設として，乳幼児と保護者の方が親子でのんびり過ごしたり，同年齢のお子さんと遊んだりすることができる「子育てひろば」が，中部すこやか福祉センターや南部すこやか福祉センター，東部区民活動センターなど，多くの区の施設に設置されています。また，区の行政サービスとして子ども家庭支援センターなどの相談窓口などもあります[22)]。後述する子育て世代向け調査にて訪問した中部すこやか福祉センターの子育てひろば「どんぐり」には乳幼児向けの絵本が 10 冊程度備えつけられていました。

2. 3　先行事例調査

（1）公共図書館

① 視察

新図書館の運営計画検討を進めるにあたり，本検討業務の重点項目である「ビジネス支援」,「子育て支援」を実施している図書館への先行事例調査を行いました。調査結果は，**添付資料 2「先行調査事例シート」**の通りです。

・調査概要

表 5　先行事例調査（視察）の日程と場所

日程	場所
平成 30 年 5 月 29 日	塩尻市立図書館（えんぱーく内）
平成 30 年 5 月 30 日	安城市図書情報館（アンフォーレ内）

・調査結果

添付の通りです。

・考察

◆ 一般，地域サービス

● 図書館の施設活用及び併設サービスと一体となった，くらしと仕事に役立つサービス提供

市民活動や仕事に有効である，音楽スタジオや 3D プリンタなどの機器がある施設などが併設されており，図書館との動線を意識して複合施設が作られていました。図書館だけで住民サービスをしようとするのではなく，他施設を有効活用することによって，くらしと仕事に役立つ図書館を実現することの重要性が示唆されていました。

● 情報機器を活用した効果的かつ迅速なサービス

自動貸出機や電子新聞が利用できるタッチパネルディスプレイなどが提供されており，セルフサービスによる効率的なサービスや，幅広い情報源の利用について，その実現可能性が充分にあることが示されていました。

◆ ビジネス支援

● 図書館があらゆる情報の集積地となることの重要性

情報とは紙媒体に限らず，デジタル資料，イベント，情報を持つ人（相談員またはイベント講師）などあらゆるモノ・コト・ヒトを介します。それらの膨大な情報を体系的に見せ，利用者が求める情報にたどり着きやすくなる仕組みが，設備，人的サービスの両面に

おいて必要であることが示されていました。

● 利用者を適切な場所・サービスに送客すること（出口支援）の重要性

利用者の状況は様々で，求める情報は人それぞれです。地域に居場所を作りたい，子育て中でも安心して働きたいなど，一人ひとりのニーズに適切に応えるための仕組みの必要性が示されていました。

● 図書館ならではのサービスを充実させることの重要性

参考資料を用いたビジネス相談，書籍を軸にしたイベントの開催，あらゆる情報を網羅・把握・活用できる人材の配置などが考えられます。

◆ 子育て支援

● 図書館の子育て支援の効果を高める併設サービス

子育て支援センター等が併設されているため，図書館としての子育て支援以外の，子育て支援サービスも同じ施設で利用しやすくなっています，またえんぱーくでは，図書館と子育て支援センターがイベントで連携しているように，施設や併設サービスの連携の必要性が示唆されていました。

● 子育て支援の場とコレクション，プログラム

育児や子どもの読書支援などの多様な子育て支援の資料収集と日本十進分類法（NDC）横断的な配架，想像力を育むものの展示，児童向けのロボットプログラミング講座などのプログラム，「読書通帳」の取り組みなど，多様な子育てに有効な仕掛けがあり，新図書館の方向性と類似しており，運営計画の具体化の際に反映できるものでした。

◆ 学校支援

● 学校支援の人的サービス

司書だけでなく（安城市では各学校に学校司書を配属している），「学校図書館アドバイザー」といった名称の，教育委員会の専門員が学校図書館を訪問するなどして支援する取り組みを行っており，公共図書館や各学校図書館をつなぐ人的サービスがあり，公共図書館の学校支援や学校図書館の運営について示唆がありました。

● 公共図書館と学校図書館のシステムの一体運用の可能性

安城市では，システムの一体運用と，それにともなって開始した，公共図書館の本を，学校の教員や子どもたちに貸し出す定期配送サービスを運用し，学校への貸出用資料の確保もされていました。こうした取り組みの結果，利用が開始前と比べて 2 倍以上増加しています。

（2）地域開放型学校図書館

① 文献調査

地域開放型学校図書館の運営計画検討を進めるにあたり，運営計画の方向性で述べた形態に類似している図書館の調査を行いました。東京都近郊の地域開放型学校図書館であること，及び学校図書館と公立図書館が併設されていることを条件に調査対象を抽出し，千代田区立昌平まちかど図書館，渋谷区立臨川みんなの図書館，立川市柴崎図書館について調査を行い，施設の概要をまとめました。なお，この調査をとりまとめるにあたって，受託会社の内部資料も参照しました。

・千代田区立昌平まちかど図書館

昌平まちかど図書館内の一部に学校図書室を併設しています。現在蔵書数は，千代田区立昌平小学校の学校図書館は約 11,800 点，千代田区立昌平まちかど図書館は約 18,000 点です（統計も受託会社の内部資料より，以下同様）。

学校とは入口が別になっており，学校から直接図書室に入ることはできません。

・渋谷区立臨川みんなの図書館

校舎に公共図書館がある事例です。現在蔵書数は，渋谷区立臨川みんなの図書館は約 77,000 点です。なお，この蔵書数に渋谷区立臨川小学校の学校図書館の蔵書も含んでいます（受託会社の内部資料によると学校図書館のみで約 13,000 点という統計あり）。

1 階（一般，YA（ティーンズ））と 2 階（児童，学校図書館）に分かれています。学校と公共図書館の入口は別になっています。学校図書館は公共図書館と一体化していますが，2 階学校側とはドアで区切られています。調べ物は学校図書館，読み物は公共図書館と選書について棲み分けをしています。

中学生以上が利用する場合はカウンターにて利用者カードを確認し，バーコードで貸出入力をしてから入館者証を交付し，入館できます。入館者証が返却されたら，バーコードでシステムに返還入力を行い終了します。

・立川市柴崎図書館

校舎内に公共図書館がある事例です。現在，立川市第一小学校の学校図書館は約 9,400 点，立川市柴崎図書館は約 27,000 点です。

公共図書館と学校図書館が簡易なパーテーションで区切られています。学校が休みの日はパーテーションを開け，公共図書館利用者が学校図書室の資料を閲覧できます。

以上より，運営において重要となる安全性確保のための方法など，公共図書館と学校図書館の一体的整備における運営の実態について，運営計画案の参考となる情報を得ることができました。

2．4　中野区民の意向調査

（1）ビジネス支援

① グループインタビュー

多様な働き方に興味のある中野区在住・在勤の方を対象に，グループインタビューを開催しました。調査結果は，**添付資料3「中野区新図書館に関するグループインタビュー記録（テーマ：ビジネス支援）」**の通りです。

・開催概要

表6　グループインタビューの日時，場所等

日時	平成30年6月16日　13時30分～15時30分
場所	中野区弥生区民活動センター
参加者	多様な働き方に興味がある中野区在住・在勤の8名

・調査結果（要旨）

◆ 図書館の利用状況

頻度は高くないものの，必要に応じて利用する人が多くいました。目的は，資料閲覧，趣味の本を探す，専門書のバックナンバー利用，子どもを連れての利用など様々です。

◆ 「場」という考え方

ビジネス支援について，情報，人が集まる空間を求める声が多くありました。また，ブックカフェのように飲食可能で居心地のよい空間，スキルアップにつながるセミナーの開催，若年層・シニア向けの就職支援などについて意見が出ました。

◆ 「相談できる人」という考え方

何を聞けばよいかわからない方へのアプローチ方法について，固定の曜日・時間・テーマを設ける，利用者の貸出履歴から傾向を読み取って相談に乗る，などの意見が出ました。「相談できる人」がいることの利点として，自分で調べるより聞いたほうが迅速な解決につながること，図書館外にある適切な情報や場所に導いてくれることなどが挙げられました。

◆ 図書館のビジネス支援をもっと知ってもらうには

それぞれから様々な意見が出ました。施設名に「図書館」を入れないことで図書館が持つ固定概念を払拭できるのではというものや，その図書館ならではの特色を出していくこと（地域性），コワーキングスペースに集まった人たちに対して実証実験を可能にすること，若年層への早期キャリア意識の醸成（開催しているセミナーを間近に見ながらの作業），図書館側からの情報発信（メールマガジン等）などが挙げられました。

◆ 図書館のビジネス支援を行う意義

区内でビジネスをする事業所や起業を検討している者にとって，情報取得と交流が可能なコワーキングスペースは重要であることが指摘されました。また，図書館という公的施設のビジネス支援を受けることで企業としての信頼感を得ることにつながるとの指摘もありました。

◆ さいごに

紙の本を手に取る機会が減った今だからこその，図書館のあり方や，副業を始めとする「今の自分にできること」という観点で働き方のきっかけ作りをしていくこと，図書館からの積極的な情報発信，情報と人をつなげる機能（相談できる人）が揃った「場」の必要性など，参加者それぞれから利用者の視点で自由に意見が述べられました。

・考察

◆ 今回の参加者は，求める資料の探し方，資料の活用方法等に関するリテラシーが比較的高い人が多数でした。しかし，新図書館におけるビジネス支援のターゲット利用者は，若年層，子育て中の主婦，シニア等，必ずしも現在進行形でビジネスに携わる人だけではなく，何を相談すればよいかわからない方を基準に，誰でも気軽に利用できる施設・サービスを提供するためのアプローチについて検討する必要があります。

◆ 豊富なデータベースやアーカイブ等，図書館ならではの蔵書量を活かし，情報と人をつなげる機能が一つの空間に集約されることが，図書館におけるビジネス支援で大切なことであると考えられます。

◆ 参加者の利用状況からも読み取れるように，各利用者が想定している，図書館でできること，あるいは要求していることは，図書館サービスの一部に限定される場合が多いようです。グループインタビューでは，企画書作成のために資料を求めて来館したり，子どもと一緒に絵本コーナーを訪れ過ごしたりするなどの利用状況が挙げられました。そ

こで，例えば，関心をひくテーマごとに，NDC（日本十進分類法）横断的な書籍配架によって，仕事のための資料探しに来た人者や子どものための絵本を借りに来た人者が，興味を持てる趣味の本などを手に取ることがあるかもしれません。図書館は，このような，直接的なビジネス支援だけでなく，間接的に利用者個人の生活を豊かにできるきっかけを与えられるような場所である必要があります。

② 質問紙調査

ターゲット利用者層である多様な働き方に興味のある在住・在勤・在学の方のうち，区内創業支援施設の利用者を対象に，質問紙調査を開催しました。調査結果は，**添付資料 4「ビジネス支援事業に関する住民意向調査 単純集計」**の通りです。

・調査概要

表 7　区内創業支援施設の利用者対象の質問紙調査の概要

調査方法	質問紙調査（調査対象に随時配布）
有効回収数	26人
調査日程	平成30年8月2日～8月15日
調査場所	区内創業支援施設の利用者に随時配布した

・調査結果（単純集計）

添付の通りです。

・考察

◆ コワーキングスペースを望む声

議論しながら，ときに飲食しながら利用できるコワーキングスペースを望む声が多く，図書館においてそれを望むということは，より気軽に，低コストで利用できる作業場のニーズが高いことがうかがえました。

外出先で気軽にかつ集中して PC で作業できる環境が不足していることや，オフィスが狭い企業においては社内が落ち着かない場合，外部で作業がしたいといった需要があることに関係している可能性があります。

◆ 情報発信手段を狭めない

スマートフォン用アプリについては，好きな時間に場所を選ばず情報収集できるため，好意的な意見が多く見られました。一方で，メールマガジンの配信については否定的な意見が多くありました。

SNS をはじめとする様々な連絡手段が増えているため，メールという手段を使って　いない人が増えてきていることに関係している可能性があります。しかし，全年齢が利用対象である新図書館においては，情報発信手段を極端に狭めるべきではないと考えます。

◆ 利用者が自分のペースで調べられる環境づくり

オンラインデータベースの使い方講座に関しては，実際に参加するための時間を割けないもしくは参加する必要性を感じないと考える人が多い可能性があります。

Web で使い方を説明したり調べることができたりする等，利用者が自分のペースで調べられる環境作りが必要と思われます。

◆ さいごに

今回の運営計画の柱でもある相談機能全般についてやや否定的な意見が目立ちました。特筆すべきは,「現在の働き方，将来の進路等に関する相談ができる」の評価が低かったことに対し,「さまざまな職業に関する情報取得や相談ができる」については好意的な意見が比較的多かった点です。

「人生相談を受けています」といった雰囲気では，利用者にとっては相談したくてもしにくいのかもしれません。まずは相談カウンターに立ち寄ってもらえるよう，受け付ける相談内容についても比較的軽いもの（職業はどんな選択肢があるのか，区内または区外にどんな施設や企業があるのか等）を提示したり，同時に相談員から利用者に働きかける機会も設け，フロア全体の活気ある雰囲気作りに注力していくべきなのではないかと考えられます。

なお，相談員との信頼性が深まったり，フロア内に話しやすい雰囲気があることで，利用者ははじめて悩みを相談できるようになる可能性があります。

(2) 子育て支援

① 質問紙調査

子育て支援事業のターゲット利用者層である子育て世代の中野区民のうち，東部区民活動センターまたは中部すこやか福祉センターの子育てひろばを訪問しその利用者を対象に，質問紙調査を開催しました。調査結果は，**添付資料 5「子育て支援事業に関する住民意向調査 単純集計」**の通りです。

・調査概要

表 8　子育て世代向け調査の概要

調査方法	質問紙調査（集合調査法）
有効回収数	46人
調査日程	平成30年8月に全6回訪問
調査場所	東部区民活動センター及び 中部すこやか福祉センターの子育てひろば

・調査結果（単純集計）

添付の通りです。

・考察

◆ 提案への反応

運営計画の方向性として設定した子育て支援事業に対応する提案について，全般的に必要度合い（6 段階）が 4.3 以上の好意的な結果が得られました。該当の調査対象全般に求められる機能と考えられます。

4 台前半のものもありましたが，該当のテーマに関心のない方にはイメージしにくい機能です。しかし，好意的な数値が出ていることから，その期待がうかがえます。

◆ にぎやかな場と静かな場のゾーニング，交流や体験の機能

5 以上のものをみると，にぎやかな場と静かな場のゾーニング，交流や体験の機能，創造力を養う効果，遊びの要素を入れたイベント，気軽に参加できるイベントなど，想定通りです。託児サービスについても，4.8 以上と高い数値でした。特に該当の調査対象全般に求められる機能と考えられます。

(3) ティーンズ向け

① ワークショップ

中野区の中学生を対象に，ワークショップを開催しました。調査結果は，**添付資料 6「中野区新図書館等に関するワークショップ記録（ターゲット：ティーンズ)」**の通りです。

・開催概要

表9　ワークショップの日程，場所等

日程	平成30年7月4日，11日，12日，13日の全6回
場所	中野区立図書館
参加者	中野区立中学校に通う2年生 （図書館の職場体験学習参加者）　16名

・調査結果（要旨）

◆ 図書館の利用状況

16名中8名が図書館を利用しており，本の利用（好きな作家の他の本や，学校図書室にない本の取り寄せなど)，居心地（資料や辞書を使った勉強，静かさや涼しさ，ゆっくりと本が読める)，アクセスのよさ，他の人が薦める本の読書（図書館のポップや友達など）などの理由が挙げられました。

また，他の8名より，利用していない理由として，家から遠い，忙しくて時間がない，公共図書館以外から本を入手する，公共図書館に読みたい本がない（学校図書館や購入，または読みたい本がない)，居心地（ゆっくり本が読みたい)，本を読むことが少ないまたは好きではない，他の場所で遊ぶ，などが挙げられました。

◆ 新図書館の場（特にティーンズルーム）またはサービス（特にティーンズ向け）について

機器類の充実（PC，タブレット，電源，Wi-Fi，テレビや大型スクリーン，DVDや音楽プレイヤー，ロボット)，多様なコレクション（洋書，マンガ，さらにはカードゲーム，ボードゲーム，テレビゲーム，問題集，DVD，電子書籍，自作の小説展示)，サービス（勉強の手伝い，カフェやコンビニ，ドリンクバー，文房具の販売などの併設サービス)，設え（個室や複数人で利用する部屋，談話室，読書室，運動スペース，くつろぎスペースなどのゾーニング，ソファやクッション，毛布，寝られるイスなどのアメニティの工夫，電子キーボードやジグソーパズルなどの参加型の仕掛けなどの人の集まる工夫，図書館脱出ゲームや昔のDVDの鑑賞会といったプログラムなどが挙げられました。

◆ 地域開放型学校図書館の場やサービスについて

開館時間を長くすること，機器類（電源，Wi-Fi，充電器，大きいテレビなど），多様なコレクション（雑誌，マンガ，ゲーム，パズル，ライトノベル，学校にない本など），サービス（調べたいことをすぐ調べられる，自動販売機，無料の水・お茶，軽食，給食の味見，カフェなどの併設サービス），設え（運動ができる場所，みんなでゲームができる場所などの交流スペース，子どもにもシニアにも居心地のよい空間，遊び場，読み聞かせスペースなどのゾーニング，ソファやそれぞれの年代にあったものなど家具・調度品の工夫，キッチンや運動場などの施設など），プログラム（先生を招いた勉強会，音楽会や，囲碁将棋大会，ビブリオバトル，好きな本の紹介，授業で作ったものの地域の人へのプレゼンテーションなど）などが挙げられました。

・考察

◆ 図書館を利用する理由と，利用しない理由について

利用する人は，現在の図書館のサービスやコレクション，居心地のよさに満足していることがみられるが，ゆっくりと読書をしたい，という同じ理由から，図書館を利用する者，利用しない者がおり，ティーンズにも多様なとらえ方があることが読み取れます。現在の中野区立図書館の基準に合わないものでも，今回出たようなアイデアを運営計画に活かすことを積極的に検討することで，利用していない人の利用を促すことできると思われます。

◆ 情報機器の充実

PCやタブレット，そして電源やWi-Fiなどの情報機器の充実が求められています。スマートフォン等のデバイスを利用しやすくしたり，スペース等に起因するコレクションの少なさを補ったりできるものであり，ティーンズの学びのため有効なことと考えられます。また，成長するロボットという新しいアイデアもみられ，ロボットに限らずこうした体験型かつ新しい技術にふれられる仕掛けは，利用者の興味をきっかけに，継続的で深い学びにつなげられる可能性があるものです。

◆ 多様なコレクション

「洋書」が挙げられ，外国語の図書を読みたいティーンズがいることがわかり，語学教育のため充実化を推進してもよいものです。また，マンガ，ライトノベル，さらにはゲームなど，現在の中野区立図書館では所蔵していない，幅広い資料の要望がありました。居場所や交流の場などの様々な図書館のあり方を視野に入れ，まずは図書館に来てもらうことを考え，現行図書館の資料選定基準の改定の検討の必要性についての示唆がありました。さらに，自身の創作物の発表の要望もあり，図書館の新しい役割を視野に入れて運営計画

案を検討する必要があります。

◆ 居心地をよくする，設えや併設サービスの充実

ゾーニングにより様々な場を設けることや，カフェや自動販売機，コンビニ，軽食，文房具などの併設サービスを設けること，家具や調度品の工夫により，図書館で快適に過ごすための様々なアイデアが出されました。電子キーボードやジグソーパズルなどの参加型の仕掛けなど，人の集まる工夫も挙げられ，導入を検討する必要があります。

◆ 遊びの要素など，多様なプログラムなどの仕掛け

前述のゲームやジグソーパズルを利用できるようにすること，また囲碁将棋大会や図書館脱出ゲームなどの遊びの要素を入れたプログラムなどの仕掛けが挙げられました。図書館の利用促進のため，また遊びの要素をうまく入れて効果的に学んでもらうために，それらの導入の検討が求められます。

◆ 交流の場やプログラム

飲食やおしゃべり，遊びをしながら交流できる場への要望がありました。また，学習成果の地域の人々へのプレゼンテーションのプログラムの要望が出ており，交流の場としての，新図書館や地域開放型学校図書館の可能性を示唆する意見が出ました。

（4）全般

① 質問紙調査

16 歳以上の区民を対象に質問紙調査を実施しました。調査結果は，**添付資料 7「16 歳以上の区民を対象とする住民意向調査 単純集計」**の通りです。

・調査概要

表 10　16 歳以上の区民を対象とした質問紙調査概要

調査対象	16歳以上の中野区民
対象者数	3,000人 層化二段無作為抽出法（系統抽出法）により住民基本台帳より抽出した
調査方法	郵送配布，郵送回収
有効回収数	641人（8月22日現在）
回収率	21.3%
調査期間	平成30年8月3日～8月18日

・調査結果（単純集計）

添付の通りです。

・調査結果（要旨）及び考察

◆回答者について

●回答者の年齢について

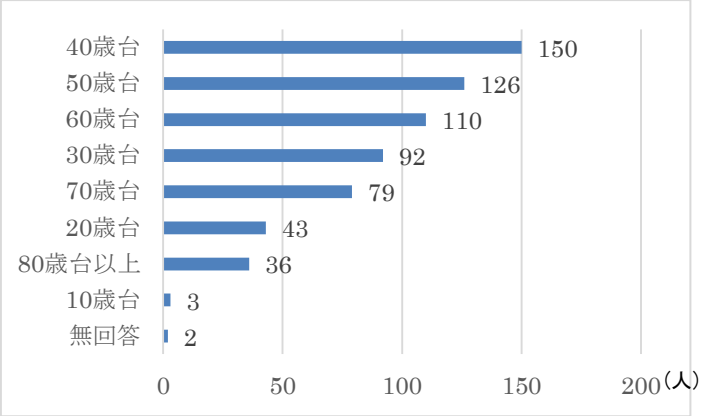

図 2　年齢台別回答者数

回答者は，40 歳台が 150 人と一番多く，50 歳台，60 歳台，30 歳台，20 歳台，80 歳台以上と続きます。すべての世代の調査対象から回答を回収し，意向を把握することができました。

10 歳台は，調査対象が 16 歳以上であったこともあり比較的少ない人数でしたが，ティーンズ向けのワークショップなど，他の調査との組み合わせで意向把握を行います。

●中野坂上駅周辺の利用状況について

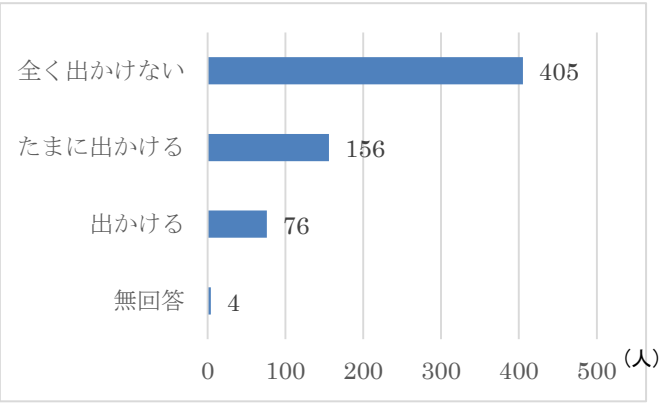

図 3　回答者の中野坂上周辺の利用状況

「出かける」または「たまに出かける」方が 232 人いました。本質問紙調査の結果は新図書館が設置される中野坂上で過ごす人々，過ごしてきた人々の住民意向は反映できているものであるといえます。

●中野坂上駅周辺に「出かける」または「たまに出かける」方の目的

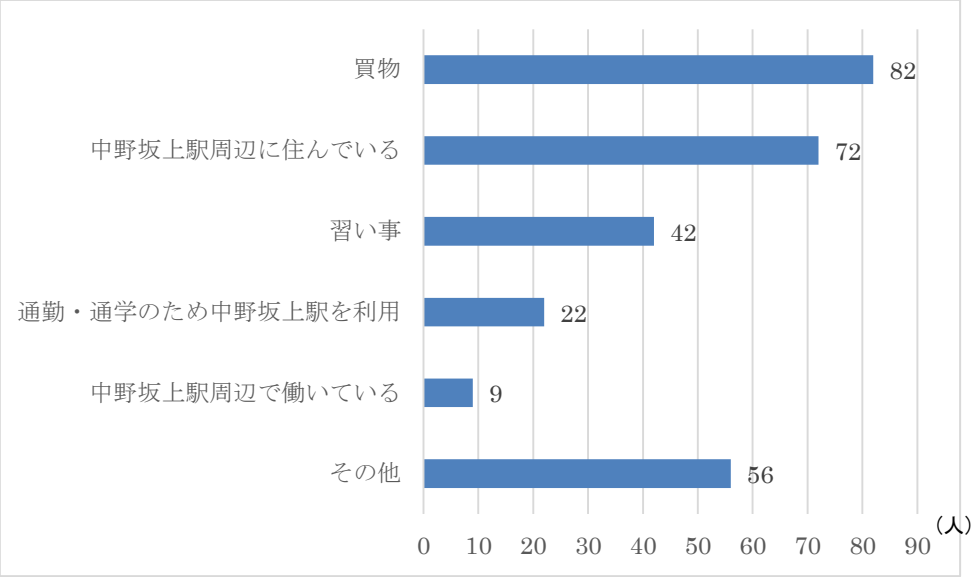

図 4　中野坂上周辺を利用する方の目的

中野坂上駅周辺で働いている方を含め，通勤・通学で利用する方もいますが，買物や習い事，中野坂上周辺に住んでいる，など，生活の動線のなかで中野坂上で過ごす方が多くいました。その他の内容としても，生活のなかでの理由として，通院，食事，散歩，ネイルサロン，整体，子どもの部活の試合応援，成願寺参り，クリーニング，友達が住んでいる，東部地域事務所を訪れる，などです。

◆回答者の生活（くらし・仕事・学業）について

●子育て中かどうか

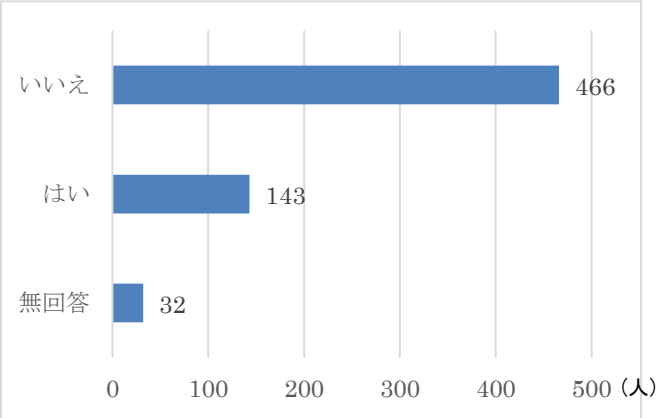

図 5　子育て中かどうかの質問の回答数

子育て中の方が 143 人おり，本質問紙調査の結果は図書館の子育て支援事業のターゲット利用者層である，子育て世代の住民の住民意向を反映するものであると思われます。

●情報取得手段（仕事）

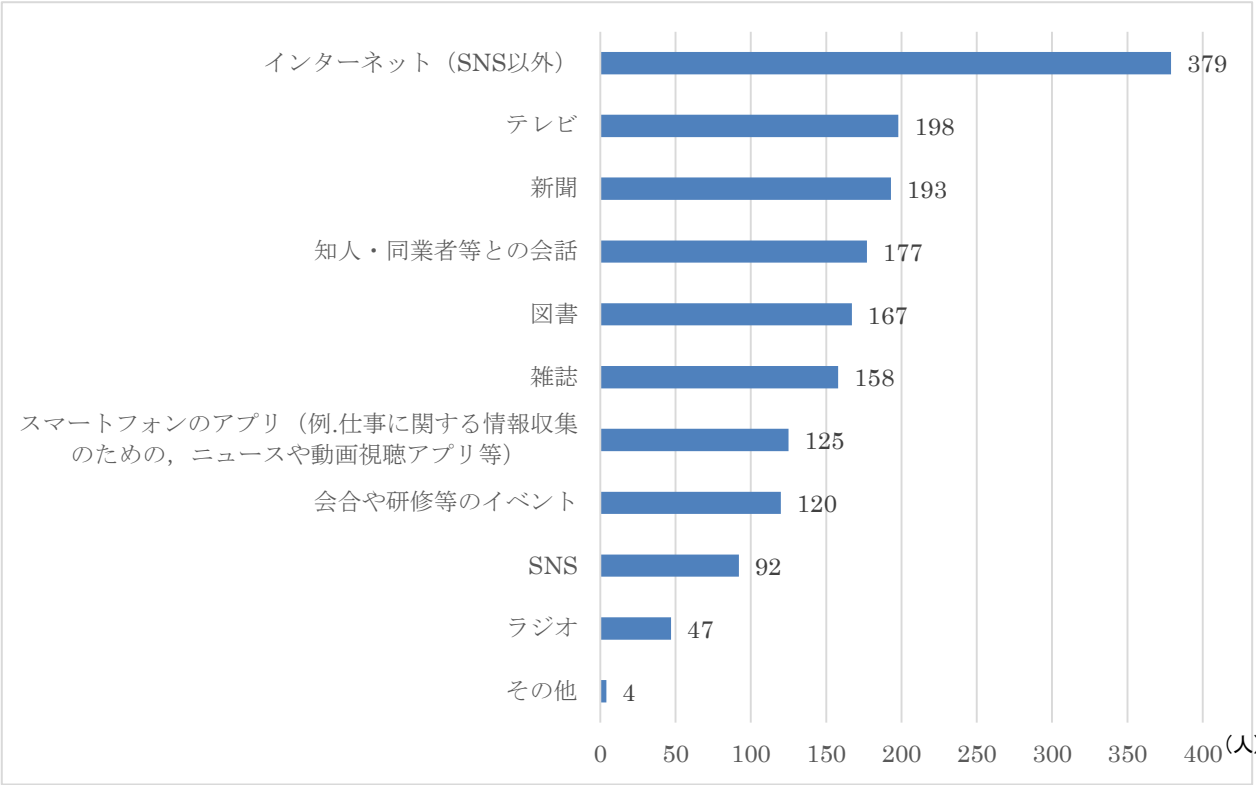

図 6　回答者の仕事の情報の取得方法

現在働いている方に質問しました。仕事の情報の取得方法は，インターネットが圧倒的に多く，テレビや図書，雑誌なども比較的大きな数値となっており，有用な仕事の情報の入手手段になっていることが読み取れます。

また，知人・同業者等との会話も，比較的高い数値です。各種メディアとともに，人と交流して情報を得て，仕事の課題解決に役立てる，ということに効果があることを示していると考えられます。この交流は，ビジネス支援の課題解決型図書館として持つべき機能であることを示唆していると考えられます。

●情報取得手段（子育て）

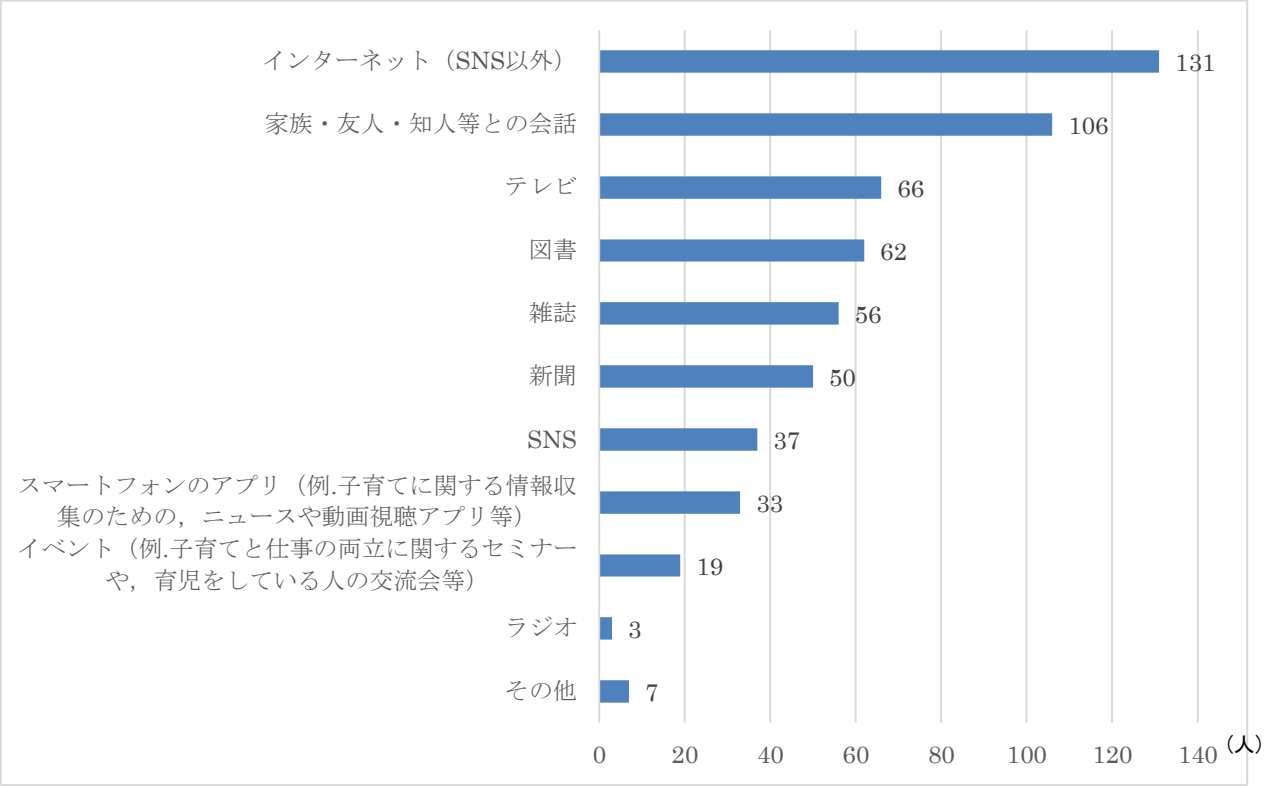

図 7　回答者の子育ての情報の取得方法

現在子育て中の方に質問しました。仕事の情報の取得方法と同様の傾向です。メディアを揃えるともに，交流機能は，子育て支援の課題解決支援型図書館として持つべき機能であることを示唆していると考えられます。

◆図書館利用状況

●利用するかどうか

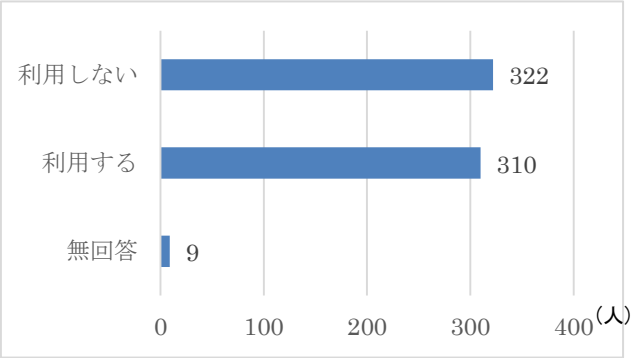

図 8　回答者の図書館利用状況

利用する人，利用しない人が，回答者のほぼ半数ずつを占めていました。利用中の方が現在の図書館の状況を踏まえて述べる意向を把握できます。

また，非利用者がなぜ利用しないのか，を調査することができ，これは図書館の課題を把握することに役立ち，利用促進のためのアイデアを得ることができます。計画案策定に役立ちます。

●利用する方の利用頻度

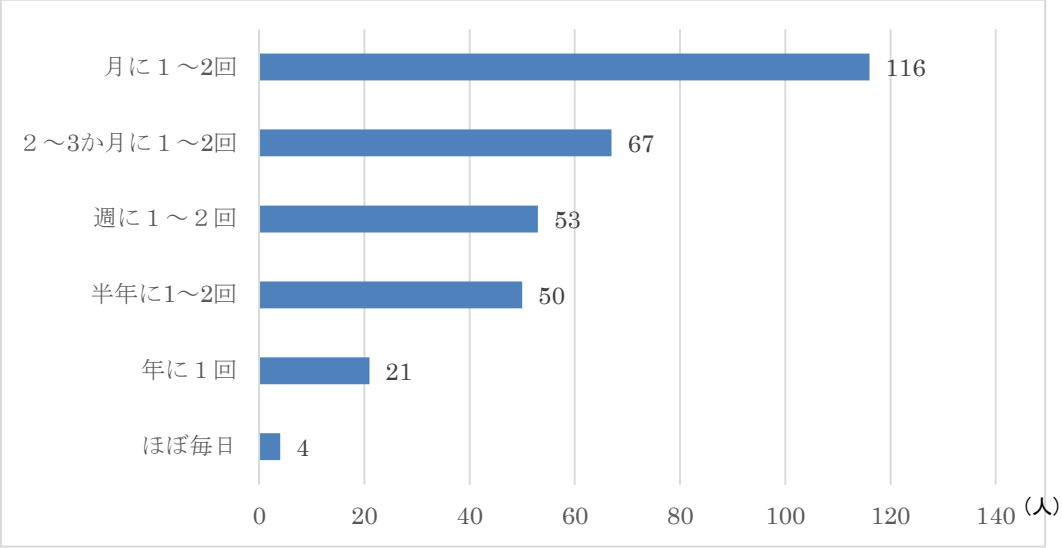

図 9　図書館を利用すると答えた方の利用頻度

月に 1～2 回が 116 人と一番多く，週に 1～2 回と頻度が高い方も 53 人おり，頻繁に利用する方からときどき使う方まで，様々な利用頻度の方の意向を調査することができました。

●利用する目的

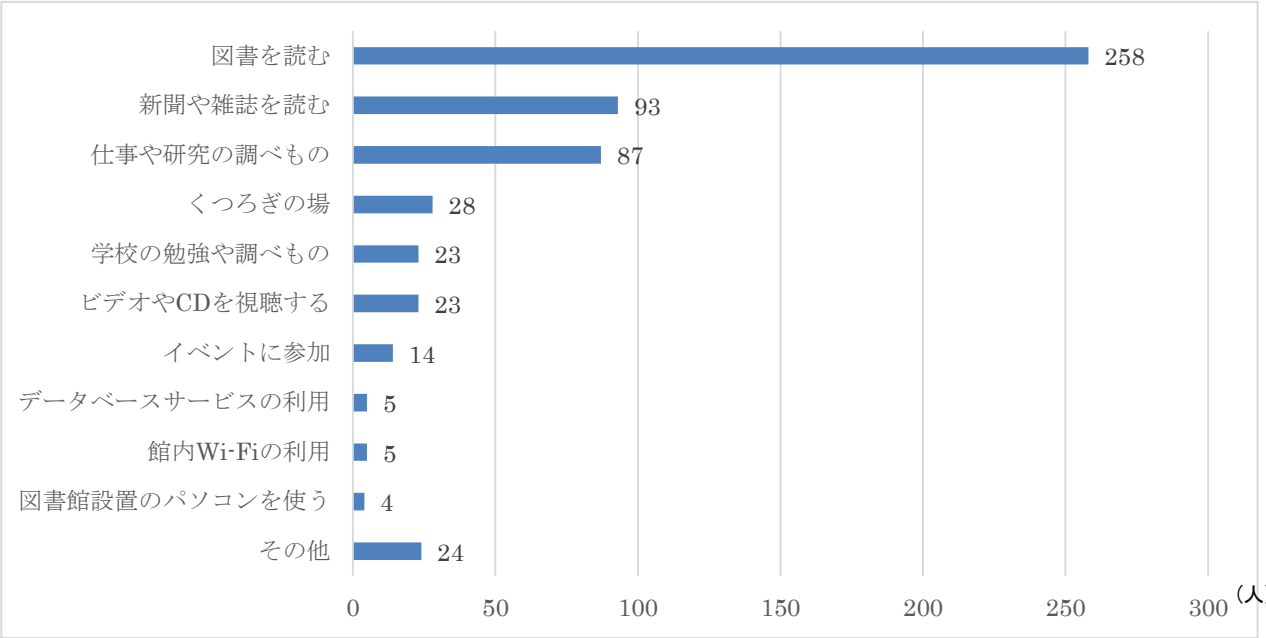

図 10　図書館を利用すると答えた方の目的

利用している方に目的を質問しました。図書，新聞，雑誌を読む方が圧倒的に多いとともに，仕事や研究の調べ物をする方も比較的多い人数を占めていました。現在も，仕事のための利用をしている人たちがおり，こうした図書館の価値を高めることは有用であると考えられます。

また，館内 Wi-Fi の利用や図書館設置のパソコンを利用する方は，小さい割合でしたが，図書館は図書を読む場所というイメージが強いためと考えられます。情報サービス機関としての図書館の役割をもっと知ってもらえるよう，広報にも力を入れることが必要と考えられます。また，ビジネス支援や子育て支援という切り口でサービス提供することで，図書館は単に図書がある場所ではなく，課題解決に使えることを示す効果があるのではないかと考えられます。

●利用しない理由

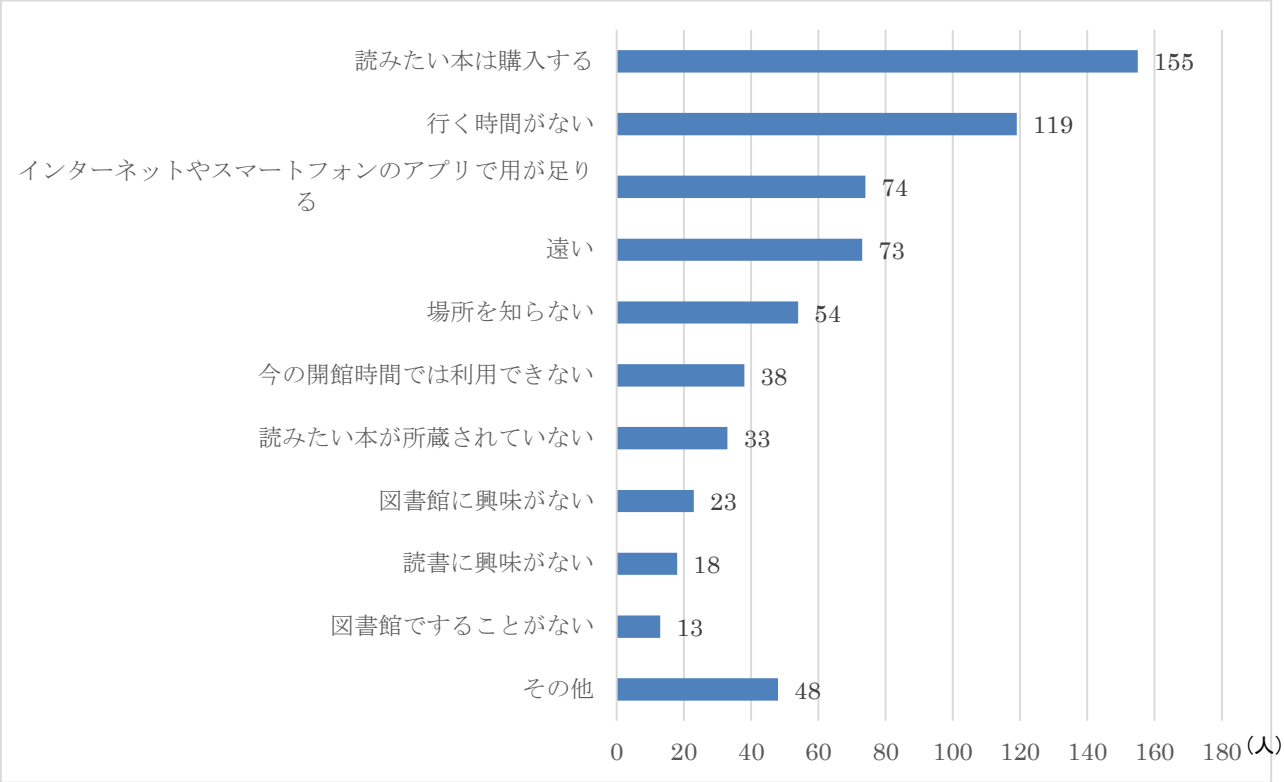

図 11　図書館を利用しないと答えた方の理由

利用しない方に理由を質問しました。読みたい本は購入するという方が多くおり，読みたい本が所蔵されていないという方もいました。図書館は図書館間の相互貸借サービス等を使えば，所蔵していない情報源にアクセスするサービスを提供しています。この機能の広報が必要かもしれません。

時間がないことやアクセスのしにくさなどの利用の困難さをあげる方も多くおり，Web での検索サービスや返却ポスト等によるサービスの利用しやすさ向上の必要性を示唆していると考えられます。

◆中野坂上の新図書館及び地域開放型学校図書館に望むこと

●蔵書（ビジネス支援）

図 12　ビジネス支援の蔵書への要望（5 段階）

5 段階で尋ねたところ，すべて 3 を超えており，期待が示されました。特に最新の情報，ビジネススキルの資料は高い数値であり，関心の高さがうかがえます。

●蔵書（子育て支援）

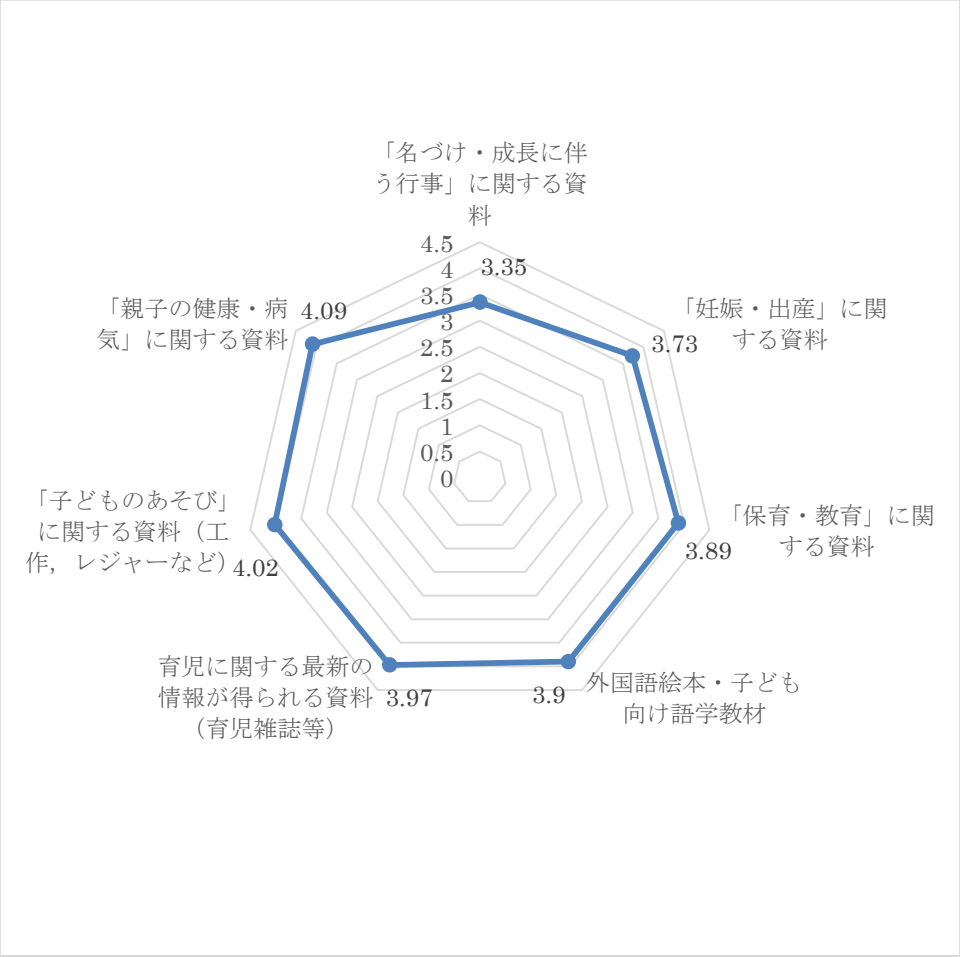

図 13　子育て支援の蔵書への要望（5 段階）

ビジネス支援と同様に，5 段階で尋ね，すべて 3 を超えており，期待が示されました。特に最新の情報が高いことは共通しており，2 種の課題解決のために必要な要素と考えられます。

●その他の資料

その他の資料としては，次のような要望がありました。

・新しい情報が求められる一方で，息の長い本の要望もありました
・蔵書とセットで，本を通じた交流や語学に関するものなど，イベント，人的サービス，設えの整備
・幅広い雑誌，視聴覚資料，漫画などの多様なメディア
・電子図書館サービス

・絵本や少数の小説の要望がある一方で，多くのノンフィクション（語学，外国の文化，歴史，介護，病気，会話，自然，料理，食育，芸術など，趣味や課題解決のための様々な資料）
・地域の情報
・区立図書館の蔵書以外の利用
・中高生向け資料

●開館時間

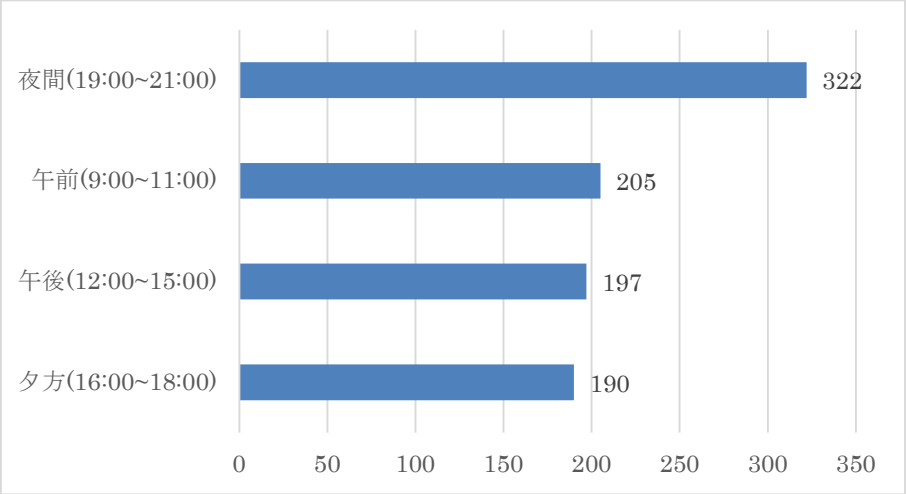

図 14　利用しやすい開館時間　（人）

夜間の開館への期待の数値が，高くなっています。利用のしにくさは図書館を利用しない理由にも挙げられていましたが，区民の利用しやすい図書館にすべく，開館時間の設定に役立てます。

●サービス

表 11　望む図書館サービス

項目	回答人数（人）	有効回収数に対する割合（%）
1. 本がジャンル別に並べられており，必要な資料を探しやすい	474	73.95
2. 職員に気軽に相談できる雰囲気がある	420	65.52
3. 自動貸出機などにより自分で資料の貸出・返却ができ，便利である	370	57.72
4. 持ちこんだパソコンで作業しやすく，仕事などに役立つ（インターネット接続環境など）	360	56.16
5. インターネットを気軽に利用でき，多様な情報を得ることができる	298	46.49
6. 他の行政サービスなどを，必要に応じて紹介してくれる	297	46.33

7. 定年後の余暇活動のための情報を得て，活用してゆける	295	46.02
8. 赤ちゃん向け絵本のコーナーなどがあり，子どもと本との出会いの場として図書館が役立つ	293	45.71
9. 電子資料（図書，新聞，雑誌など）が利用でき，多様な読書スタイルで資料を利用できる	278	43.37
10. 話しあいながら，調べものや学習ができるスペースがあり，複数人での作業ができる	273	42.59
11. CD・DVDを視聴でき，様々なメディア利用をして快適に過ごせる	253	39.47
12. 新聞記事検索や企業情報に関するデータベースを利用でき，仕事に役立つ	244	38.07
13. イベント等の情報を訪問前にインターネットを通じて知ることができ，事前情報により図書館を便利に利用できる	242	37.75
14. インターネットを通じて，イベントや会議室等施設の予約ができる	235	36.66
15. 地域関連のコレクションや，地域の情報を知ることができる	221	34.48
16. 本だけでなく，工作や実験の設備・催しがあり，効果的に学べる	203	31.67
17. 例えば3Dプリンタが活用できるなど，発想を広げるための様々な仕掛けがある	203	31.67
18. 子育てや家庭教育に関する講座，親子で参加できる講座などのイベントが開催される	200	31.20
19. 本の探索やイベント参加のときに，託児サービスを利用できる	198	30.89
20. 飲食しながら交流したり，靴を脱いで遊んで過ごしたり，くつろげるスペースがある	197	30.73
21. プログラミングやコンピュータグラフィックス制作講座などで，情報処理能力のスキルアップができる	189	29.49
22. 大活字本や音訳機，さらに対面朗読サービス（指定された資料を朗読するサービス）などが整備され，誰でも快適に図書館を利用できる	184	28.71
23. 仕事のスキルアップや，起業・就業など，人生設計についての相談サービスや講座がある	180	28.08
24. 学習，趣味，サークル活動，仕事などの発表等ができる活動の場がある	176	27.46
25. 子育てや仕事における課題解決を支援してくれる職員がいる	174	27.15
26. 自分の経験（仕事・趣味など）を活かし，図書館ボランティアとして活動できる	151	23.56
27. 交流会等に参加することで友人や仲間をみつけることができる	146	22.78
28. 読書会・本の交換イベントなどで，読書体験を共有できる	146	22.78
29. 情報化社会において安全に情報を活用していくための講座がある	132	20.59

「1．本がジャンル別に並べられており，必要な資料を探しやすい」，「2．職員に気軽に相談できる雰囲気がある」，「3．自動貸出機などにより自分で資料の貸出・返却ができ，便利である」，「4．持ちこんだパソコンで作業しやすく，仕事などに役立つ（インターネット接続環境など）」などは高い数値でした。新しいアイデアはこうした量的な調査では数値が出にくいものですが，すべてある程度の数値は出ており，他の質的な調査やターゲット利用者層への調査と合わせて必要性を示すことができたといえます。

交流機能については「10．話しあいながら，調べものや学習ができるスペースがあり，複数人での作業ができる」が 42%ほどで比較的割合が大きく，図書館に求められていることを読み取ることができます。

次にクロス集計を行い，全体，子育て中，仕事をしている方，図書館を利用していない方について，それぞれの有効回収数に対する割合（%）を算出し比較しました。比較したときに特に数値が高いと思われたものを赤字にしています。

表 12　望む図書館サービス（全体，子育て中，仕事している，図書館利用なし）

項目	全体	子育て中	仕事している	図書館利用なし
1. 本がジャンル別に並べられており，必要な資料を探しやすい	73.95	76.22	76.02	72.67
2. 職員に気軽に相談できる雰囲気がある	65.52	69.23	64.45	64.91
3. 自動貸出機などにより自分で資料の貸出・返却ができ，便利である	57.72	67.13	61.46	60.56
4. 持ちこんだパソコンで作業しやすく，仕事などに役立つ（インターネット接続環境など）	56.16	69.23	64.03	56.21
5. インターネットを気軽に利用でき，多様な情報を得ることができる	46.49	51.75	50.75	49.38
6. 他の行政サービスなどを，必要に応じて紹介してくれる	46.33	44.76	45.40	48.14
7. 定年後の余暇活動のための情報を得て，活用してゆける	46.02	41.96	45.40	44.10
8. 赤ちゃん向け絵本のコーナーなどがあり，子どもと本との出会いの場として図書館が役立つ	45.71	72.03	49.25	43.79
9. 電子資料（図書，新聞，雑誌など）が利用でき，多様な読書スタイルで資料を利用できる	43.37	51.75	49.04	41.61

10. 話しあいながら，調べものや学習ができるスペースがあり，複数人での作業ができる	42.59	56.64	45.61	43.79
11. CD・DVD を視聴でき，様々なメディア利用をして快適に過ごせる	39.47	41.96	40.47	40.99
12. 新聞記事検索や企業情報に関するデータベースを利用でき，仕事に役立つ	38.07	39.86	42.40	35.40
13. イベント等の情報を訪問前にインターネットを通じて知ることができ，事前情報により図書館を便利に利用できる	37.75	48.25	41.97	35.09
14. インターネットを通じて，イベントや会議室等施設の予約ができる	36.66	50.35	42.61	34.78
15. 地域関連のコレクションや，地域の情報を知ることができる	34.48	37.76	35.33	32.30
16. 本だけでなく，工作や実験の設備・催しがあり，効果的に学べる	31.67	46.15	32.76	31.37
17. 例えば 3D プリンタが活用できるなど，発想を広げるための様々な仕掛けがある	31.67	42.66	34.26	31.37
18. 子育てや家庭教育に関する講座，親子で参加できる講座などのイベントが開催される	31.20	50.35	31.91	29.81
19. 本の探索やイベント参加のときに，託児サービスを利用できる	30.89	39.86	32.12	32.61
20. 飲食しながら交流したり，靴を脱いで遊んで過ごしたり，くつろげるスペースがある	30.73	41.96	33.40	31.06
21. プログラミングやコンピュータグラフィックス制作講座などで，情報処理能力のスキルアップができる	29.49	36.36	31.26	29.50
22. 大活字本や音訳機，さらに対面朗読サービス（指定された資料を朗読するサービス）などが整備され，誰でも快適に図書館を利用できる	28.71	34.27	29.55	27.64
23. 仕事のスキルアップや，起業・就業など，人生設計についての相談サービスや講座がある	28.08	23.78	28.69	29.81
24. 学習，趣味，サークル活動，仕事などの発表等ができる活動の場がある	27.46	32.87	26.77	27.64
25. 子育てや仕事における課題解決を支援してくれる職員がいる	27.15	28.67	26.12	28.88

26. 自分の経験（仕事・趣味など）を活かし，図書館ボランティアとして活動できる	23.56	26.57	23.34	23.60
27. 交流会等に参加することで友人や仲間をみつけることができる	22.78	20.28	22.48	21.12
28. 読書会・本の交換イベントなどで，読書体験を共有できる	22.78	25.87	22.70	19.88
29. 情報化社会において安全に情報を活用していくための講座がある	20.59	21.68	18.63	18.94

特に仕事をしている方，子育て中の方の数値に赤字が多く，今回の計画案のサービスが課題解決支援機能として効果的なものであることがうかがえます。また，図書館を利用してない方の数値をみると，自動貸出機によるセルフサービスやインターネット利用環境に，目立ったものが見られました。これらのサービスにより，住民へのサービスとして効果的なものを展開し，利用率の向上などの効果があると考えられます。

さらに，年代と望むサービスをクロス集計のうえ，コレスポンデンス分析を行いました。次の図で，年代の表示されているポイントに距離が近い要望（図示のためそれぞれのサービスの表記を省略しています）が，各年代の方の要望である傾向が高いということを示しています。

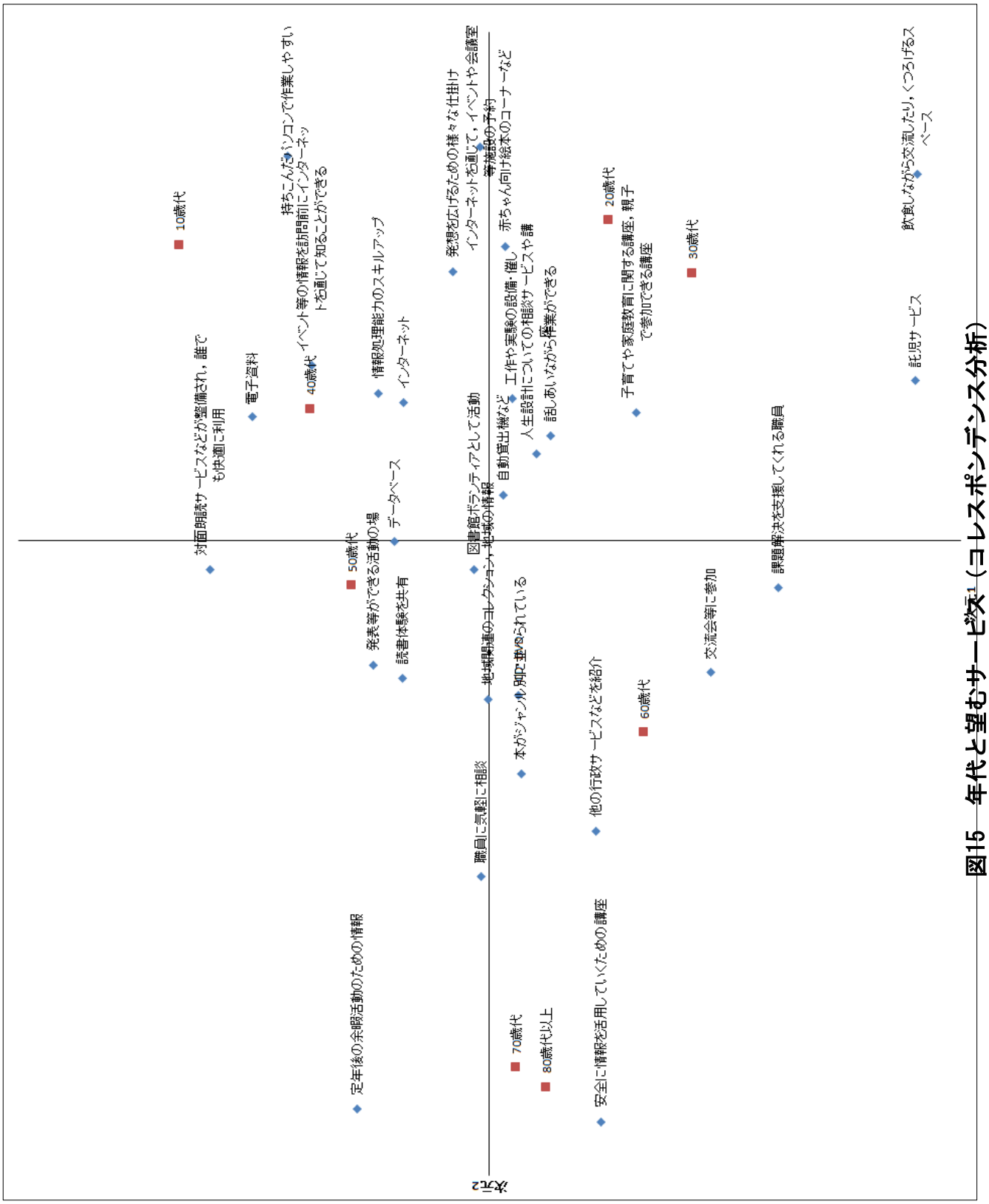

図15 年代と望むサービス（コレスポンデンス分析）

数値が低い傾向にあった安全に情報活用するための講座が，シニアの方の要望としては強いことが読み取れます。もちろん，定年後の余暇活動の情報取得についても距離が近くあり，このグラフの信頼性を高めてくれています。その他，40 歳台の電子資料サービスへの要望が強いこと，2～30 歳台の子育て世代の子育て等の講座への要望などが読み取れま

す。各年代の要望の傾向を読み取ることができ，それぞれのターゲットにフォーカスしたイベント企画などに役立てていくことが必要です。

●その他

その他の回答については，カテゴリ分けをしたところ，施設に関するものが 108 件，設備に関するものが 15 件，運営に関するものが 36 件，サービスに関するものが 40 件，コンテンツに関するものが 18 件，セキュリティに関するものが 11 件，交流に関するものが 7 件で，行政に関するものが 11 件ありました。なお，要望・意見の総件数は延べ 209 件です。様々なアイデア，課題への言及等があり，慎重に検討のうえ，計画案検討の参考にします。

2．5　まとめ

（1）運営計画検討に向けて

「1．4　運営計画の方向性」に基づき，住民全般やターゲット利用者層への質問紙による住民意向調査といった量的なアプローチと，ターゲット利用者層へのグループインタビューやインタビュー調査，ワークショップなどの質的なアプローチの組み合わせにより，住民の課題や図書館への要望などが明確化され，設定した方向性の実証とともに，新しいアイデアを得ることができました。以上の調査結果に基づいて，最大限住民意向を反映し策定した 3 つの運営計画案について第 3 章で記述します。

（2）新図書館及び地域開放型学校図書館に期待される効果

調査結果により，期待される効果を整理できます。開館後の効果を適切に測り，持続的に効果的な運営をすべく，目標の設定に役立てることが求められます。

調査結果から，図書館への要望（必要なサービスや蔵書，開館時間など）や，利用への不満（欲しい本がないなど）や課題（小さな子どもがいて利用しにくい，行く時間がないなど）について把握できました。より高度な情報サービスや，図書館ならではの課題解決支援機能を提供することで，図書館利用もしやすくなります。そのための仕掛けとして，コレクション充実とともに，人的サービスやイベント等も充実させることが必要です。

これらの結果により，住民に役立つ図書館として機能することで，これまで利用しなかった方が図書館を利用することが考えられます。その効果をイベントでの集客等から測定できるものと考え，例えば，蔵書購入やイベント開催回数などのインプット指標，ターゲット利用者にフォーカスしたイベントの参加者数などのアウトプット指標による評価とともに，まずは開館 1 年後に（原則毎年行う）来館者アンケートによる，利用者に影響を与えた成果の調査（アウトカム調査）の実施などをすることで，図書館がどのように課題解決に役立ったのか，それはどの程度かを測定できます。